

## 働き方のコツ

TK大学：環境学部・環境学科・3年

期間：令和4年8月11日～16日（5日間）

今回のインターンシップではイベントの企画・運営や植物の栽培管理について体験し、学ぶことができた。初日は事業所の歴史について伺い、園内や施設を見て回った。また、ホームページに掲載されているブログの記事を1日のみ担当させていただき、園内の花をテーマとして施設の宣伝を行った。その後、翌日開催される体験教室やガラポン抽選会などイベントの準備のため、教室の設営や賞品の設置を行った。2日目、3日目はガラポン抽選会を担当した。1等から10等まではずれなしの抽選会で花や観葉植物、おもちゃ、特産品などが賞品として用意されていた。抽選会に訪れたのは子供からお年寄りまで様々であった。それぞれの年代や雰囲気などを意識して、どのような対応をするとよいのか考えながら行った。特に難しいと感じたのは9等や10等などお客様の希望でない色の玉が出たときの反応である。担当の方々から、アドバイスをさせていただき、お客様に楽しい思いをしてもらうためにはどのような反応をすべきなのかを意識して行った。4日目は地域おこし協力隊の方と行動させていただき、1日の流れ、仕事内容などを伺うことができた。その方は、お客様へのあいさつを欠かさず、気さくに会話をされており、お客様がとても楽しそうに、嬉しそうにしていたことが印象に残っている。その方の素敵な対応から、仕事をただこなすだけでなく、お客様とコミュニケーションを取ることの大切さを学ぶことができた。5日目は栽培管理を体験させていただき、ダリアとミントの切り戻しや清掃、鉢の洗浄、荷下ろしなどを行った。暑さや湿度、急な雨などがある環境下で、力仕事など行うため体力的に厳しい面もあったが、やりがいのある作業だった。

以上の体験を通して、実際に働かれている方のお話を伺い、仕事に対する責任やうまく働くためのコツを学ぶことができた。社会では仕事を計画し、指示する役割の人、その指示を受け、作業をする人がいるが、それぞれの立場で異なる苦勞があることを互いが理解することが仕事をするうえで重要であると感じた。また、働くうえで身体の健康はもちろん、心の健康の重要性も学んだ。自分自身や周囲の人に対する些細な、気遣いや心掛け次第でストレスが緩和され、より働きやすくなるのだらうと感じた。イベントの企画などデスクワークだけでなく、現場での作業など両方を体験することができ、充実した5日間であった。



ダリアの切り戻し



ミントの切り戻し



ガラポン抽選会

# まちづくりの現状と大変さ

0 大学：経済学部・地域政策学科・3年

期間：令和2年8月24日～28日（5日間）

私は、大学のゼミで地方創生について学び、興味を持ったため、商工会議所のインターンシップに応募した。

今回のインターンシップ実習で1つ目に学んだことは、商工会議所の業務についてだ。商工会議所自体は知っていたが、実習を行うまでは、検定試験やまちづくりを行っているなどのざっくりとしたことしか分からなかったが、この実習を通して、より詳しい業務を知ることができた。その中で中小企業や起業をしようと考えている人に対する支援に特に力が入っているなど感じた。また、現在の会員数やその目標、その中でだれが強い権限をもっているか、道路を借りる際にどこに許可をだすかなどの詳しいことについてもたくさん学んだ。

2つめに学んだことはまちづくりのこととその厳しさについてだ。当然、インターンシップ実習を行う前から地域を盛り上げることの厳しさはわかっていたが、地元の現在の状況を改めて間近に見ることやお店の人の話を聞くことによって、より詳しく知ることができた。その中でその地域を盛り上げるためには、地元のお店や企業の力が必要不可欠だなと感じた。チェーン店を集めるだけでは、当然他の地域も行っているため、かなり厳しい競争になってしまう。そこで、地元のお店を盛り上げて、その地域特有の魅力を引き出していくことが大事だと思った。

このまちづくりに関することで特に印象に残ったことが2つある。1つ目は、現状を見る際に商店街やその周辺のお店を周ったことによって、自分が知らないようなたくさんの魅力を持つお店が地元にはたくさんあることが分かった。しかし、その魅力を周りに伝えることが難しいため、どのようにすればこの魅力がもっと広まって、人が集まるようになるのかなと思った。2つ目は、「まちづくりには終わりはない」という言葉だ。例えば、まちづくりに成功してその地域が盛り上がって、人が集まった場合、そこでまちづくりをやめてしまったら、その地域は廃れていくかのうせいがある。この言葉について聞いた際は、まちづくりは、その地域が発展したら終わるのではなく、その状況を維持することや更に発展させていくことだと私は改めて思った。

3つ目に、応接室でのマナーや名刺の受け取り方や差し出し方、電話対応マナーなどのビジネスマナーを学んだ。応接室などに上座や下座があることは知っていたが、エレベーターにもあることは知らなかったし、電話を受け取る際は、ベルが2コールの時に出るなどのマナーを知らなかったため、とてもためになった。特に先に話してからお礼をする、語先後礼や電話を受け取る際は最後に名乗るほうが良いなどが特に重要だなと感じた。

このインターンシップ実習を通して、商工会議所の業務やまちづくりに関することなどの地方創生に関することやビジネスマナーなどの様々な分野でも生かせることも学んだ。住んでいても気づかないような魅力がたくさん詰まっている。しかし、その魅力を最大限に引き出すことや周りに伝えることの難しさを改めて感じた。現在、大阪に住んでいるが、都会ならではの経験などをインプットして、地元で活かしていくなどの今の自分だからこそできるような形で貢献していきたい。

## 「ブライダル」と「デザイン」の共通点

YK大学：国際文化学部・文化創造学科・3年

期間：令和元年9月12日～16日（5日間）

私はこの夏休み、結婚式場のインターンシップに参加した。ブライダル業界のインターンシップへの参加を決めた理由は、単純に個人的な興味があったからだ。私は、結婚とは人生の節目になる一大イベントであり、式を挙げる人たちにとってはとても幸せなことであると考えている。そして、結婚式はその幸せを象徴するものだとも思っている。そのため、その結婚式が執り行われるまでにはどんな工程が踏まれるのか興味があった。

今回のインターンシップは本当に緊張の連続だったが、同時に、とても新鮮な体験になった。「会場をつくる」という方面では、バンケットを体験させていただいた。テーブルクロスの畳み方と掛け方、グラス拭きや食器のセッティングなどだ。結婚式の引き出物を作ることも関わった。また、実際の披露宴に立ち会う機会も三日目にあり、そのときは実際会場に出てお客様への対応をした。私は接客業を経験したことがなかったため非常に不慣れだったが、社員の方の指導のもとどうにかやりとげることができた。また別の日には衣装部の仕事も体験させてもらったが、こちらは案外体力仕事で思ったよりも苦戦した。衣装部と式場は離れたところにあり、新郎新婦やその両親が使用する衣装、会場のマネキンに着せるドレスの搬入や回収など、ドレスが見た目以上に重く移動に体力を要した。貸し衣装のため、レンタル期間が重複したりしないか、いつ戻ってくるのかなど、情報が綿密に管理されていた。ただ、貸し衣装屋だからといって衣装の管理だけしていればいいというわけではなく、衣装に迷う新郎新婦に対して、理想に近いものやその人に似合うもの、実際の会場に映えるものなどを、色やモチーフまで考慮に入れて提案する必要がある。そうした関係性を築くまでには通常半年から一年程度の時間が必要で、また、人に提案するためには自分自身がきちんとした知識を持っていないといけない。そういう意味で、知識欲、知識量と、コミュニケーション能力が求められる仕事だ。

私は今回のこの経験を通して、結婚式を構成するまでの流れには、私が現在大学で勉強しているような「デザイン」にも通じるものがあるかも知れないと感じた。結婚式はその主役となる新郎新婦の意見を反映して形作られるもので、漠然としたイメージから具体例を提示するなど、スタッフの手で実現の可能性を高める必要があるという。そこにはやはりその新郎新婦らしさが出るもので、実際現場のスタッフも、「似たようなものを見たことはあるが、まったく同じものは見たことがない」と話していた。学校で何かをデザインする際にも、与えられたテーマに対して考えを膨らませ、それを自分の手で実物に起こしていく。

私は今回、その「デザイン」にあたる部分には深く関わることはできなかったが、より「現場」に近いところでそれを学ぶことができ、また、自分の「デザイン」に対する意欲を高めることもできた。今回得たことを、これからの制作や、最後の卒業制作まで活かしていきたい。

## これからの目標

Y大学：現代ビジネス学部・

国際観光ビジネス学科・3年

期間：平成30年8月28日～31日（4日間）

今回のインターンシップに参加して最初はホテルではお客様に接することが第一の仕事だと思っていました。ホテルに泊まるために来られるお客様に宿泊先を提供することであるため地元の人たちとは関わりが少なく県外や海外のお客様に目を向けていると考えていました。しかし、実際にインターンシップに参加して私が考えていたこと思っていたことのほとんどを覆されました。各部署の様々な方のお話を4日間通して聞く中で自分なりの仕事の向き合い方があることが分かりました。その中で準備を大切にされていることには驚きました。ホテルならではの非日常を提供するためにお客様の要望に沿った空間の提供を机や椅子の位置などから感じでもらうために場合によっては2～3時間かけて作っていく作業にはマイクやプロジェクターなどの機械の知識も必要になる事が分かりました。また、どの部署の方々もおっしゃっていたのがコミュニケーションの大切さです。フロントでは24時間人が立っているため引き継ぎが大切になります。他にはウエディングプランナーは当日までお客様と話し合いをして決めたことを当日は婚礼・宴会の方に受け渡します。多くの部署があり仕事内容が違うということはそれだけ受け渡し、共有が大切になってくる事がお話を通して本当によく分かりました。さらにお客様の要望に沿った演出をする際には最近の流行やニュースを常に把握していないといけません。幅広い知識を身に付けるだけでなく、人生に一度の結婚式を挙げるお客様からこんな感じの式にしたいという思いや考えを読み取り形にしていくために聞くだけでなく提案していく力も必要になる事が分かりました。そこには経験が何よりも大切になり一つの事をこだわってするのも大切ですが広い視野を持つためにも自分の興味を広げていく事が出来る人が思い出に残る物が作れると強く感じました。

4日間のインターンシップに参加して私は残りの学生生活でやってみたいことが増えました。一つ目は将来の日本に関する本を読むことです。少子高齢化や地域格差、インバウンドなど様々な視点からこれからの日本はどうなっていくのかを知り自分はどんな将来にしたいのか広い視点を持って考えていきたいです。二つ目は今しかできない経験をしっかりしておく事です。旅行やバイトを残りの学生生活以外でも興味を増やし働くことがどのようなことかを実際に体験することで広げていきたいです。また、今回山口のホテル事情を聞きまだまだ地元の事を知らないなと感じました。広島に大学に通う中で外から見た山口、地元だからこそ分かることを両方の視点から考えてみるのも面白いなと感じました。三つ目は企画・広告について知りたいなと思います。実際にプレゼンテーションなどをやる機会が大学でもありますが今回さらに実現するために費用や利益、ホテルだけでなく周りのお店について調べたりするなど知らなかったことがたくさんありました。これから買い物やレストランに行った際など広告に目を通す興味がわきました。学生から社会人になっていく為に大切なこと今の内にできることなどを実際に聞くことができ貴重な体験をすることが出来ました。